

科研費基盤研究(C)

課題番号 26370296-00

分野 人文学 細目 英米・英語圏文学

課題名 近代英文学における日本の表象に関する実証的研究

研究代表者 原田範行（東京女子大学教授→現在、慶應義塾大学教授）

＜関連研究成果発表とその周辺＞

I. 論文

1. 「近代イギリス文学における日本表象—サルマナザール、デフォー、スウィフト」『岩波講座日本歴史』月報第 16 号（岩波書店, 2015）, pp. 1-4.
2. 「『ガリヴァー旅行記』をめぐる東西文献交渉史」『旅の書物 / 旅する書物』（松田隆美編, 慶應義塾大学出版会, 2015）, pp. 193-209.
3. 「書物をして近代を語らしめよ—出版文化史から見た近代イギリスのジャーナリズム、小説、実録」『出版文化史の東西—原本を読む楽しみ』（徳永聡子編著）（慶應義塾大学出版会, 2015）, pp. 197-232.
4. 「ギヤスケルの『ジョンソン』—言語、語り、出版文化」『ギヤスケル論集』第 26 号（日本ギヤスケル協会, 2016）, pp. 1-14.
5. 「『感受性』の小説作法—『パミラ』と『トリストラム・シャンディ』のある受容をめぐる」『英国小説研究』第 26 号（英宝社, 2017）, pp. 5-31.
6. 「ジョナサン・スウィフト：「憤怒」と「自由」と—諷刺精神を涵養する磁場としてのダブリン」『文学都市ダブリン—ゆかりの文学者たち』（木村正俊編, 春風社, 2017）, pp. 27-44.
7. “Literature, London, and *Lives of the English Poets*,” *London and Literature, 1603-1901*, ed. Barnaby Ralph, Angela Kikue Davenport, and Yui Nakatsuma (Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing, 2017), pp. 65-78.
8. 「近代小説の誕生と日本表象—サルマナザール、デフォー、スウィフト」『十八世紀イギリス文学研究（第 6 号）—旅、ジェンダー、間テクスト性』（日本ジョンソン協会編, 開拓社, 2018）, pp. 2-22.
9. 「『トリストラム・シャンディ』は「珍奇」な作品か？—サミュエル・ジョンソンとローレンス・スターン」『ローレンス・スターンの世界』（坂本武編, 開文社出版, 2018）, pp. 212-31.
10. “Why Was Helen Burns Reading *Rasselas*?: A New Perspective on the Literary Legacy of the Eighteenth Century of the Brontës,” *Colloquia* (keio University) 40 (2019): 5-22.

II. 著書

1. 『「ガリヴァー旅行記」徹底注釈（注釈篇）』（原田範行，服部典之，武田将明共著，岩波書店，2013），総頁数 xiv+593+23.
2. *Poetica: An International Journal of Linguistic and Literary Studies* 84, ed. Noriyuki Harada (Tokyo: Yushodo, 2015), 総頁数 112.
3. 『風刺文学の白眉—「ガリバー旅行記」とその時代』（NHK 出版，2016），総頁数 157.
4. 『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』（田中孝信，要田圭司，原田範行編著，彩流社，2016），総頁数 390+22.

III. 翻訳

1. 『召使心得 他四篇—スウィフト諷刺論集』（ジョナサン・スウィフト著，平凡社，2015），総頁数 293.

IV. 学会発表

1. “Japan is a Fiction or Not?: Reconsideration of the References to Japan in Jonathan Swift’s *Gulliver’s Travels*.”（オタゴ大学英文学科招待講演，2014年9月12日，於：University of Otago（ニュージーランド））.
2. “Japanese Education on English, English Literature, and Globalization”（バックネル大学国際交流センターでの招待講話，2014年9月16日，Bucknell University（アメリカ））.
3. “*Robinson Crusoe* in the Context of Travel Narrative of the Early Modern England / Asia”.（*Robinson Crusoe in Asia* 国際シンポジウムでの研究発表，2014年9月20日，於：筑波大学）.
4. 「ガリヴァーとアリス—言葉、諷刺、冒険の行方」（日本ルイス・キャロル協会第21回研究大会招待講演，2015年10月31日，於：タワーホール船堀）.
5. 「シェイクスピアの近代—テキスト、制度、想像力」（第55回日本シェイクスピア学会セミナー「先人たちはシェイクスピアをどう読んできたのか」における講師，2016年10月9日，於：慶應義塾大学）.
6. 「教室の英文学」という方法論（日本英文学会第13回関東支部大会シンポジウム「教室の英文学を考える」における司会・講師，2016年11月12日，於：フェリス女学院大学）.
7. 「『ガリヴァー旅行記』の世界—視覚表象・諷刺・多義性」（奈良女子大学言語文化学科欧米言文講演会招待講演，2017年5月30日，於：奈良女子大学）.
8. 「ポカホンタスとイギリス近代」（日本アメリカ文学会東京支部例会シンポジウム「ポカホンタスの400年—環大西洋文学史を再考する」における講師，2017年12月9日，慶應義塾大学）.

9. 「文学のへそまがり—18世紀イギリスを舞台にして」（日本英文学会第90回大会特別シンポジウム「『文化』を考える—日本英文学会における文化研究の可能性」における司会・講師, 2018年5月20日, 東京女子大学）.
10. “Orality, Writing, and Print Culture in the Eighteenth-Century England with Special Reference to Samuel Richardson and Samuel Johnson” (国際会議“Writing Style: Samuel Johnson, Hugh Blair, Herbert Spencer, and Walter Pater”における研究発表, 2019年2月8日, 東京女子大学) .
11. “Difficulties, Approaches, and Tasks” (Liberlit 10におけるシンポジウム “A Problematic Period?: Teaching the Long Eighteenth Century” における講師, 2019年6月1日, 成蹊大学) .
12. “Eighteenth-Century Ocean Representations in Britain from George Psalmanazar’s *Formosa* to James Cook’s *Journals*” (“An International Conference on The Aesthetic Mechanisms of Ocean Representations in British, American, and Asian Contexts” における研究発表, 2019年7月14日, 成蹊大学).

V. その他

1. 「巻頭エッセイ—珍説東西交流史」『比較文化』第59号（東京女子大学比較文化研究所, 2013）, pp. 1-2.
2. 「書評（小特集：ジョナサン・スウィフト）—Leo Damrosch, *Jonathan Swift: His Life and His World*」『日本18世紀学会年報』第29号（日本18世紀学会, 2014）, pp. 82-83.
3. 「海外文学二〇一五年—イギリス文学」『文藝年鑑』（日本文藝家協会編, 新潮社, 2016年）, pp. 66-68.
4. 「Researcher’s Eye—秘められた東西交流」『三田評論』2016年12月号（1206号）（慶應義塾, 2016）, p. 39.
5. 「EU 離脱とシェイクスピア—文学は土着かグローバルか」『図書新聞』2016年12月24日号（第3284号）（図書新聞, 2016）, p. 6.
6. 「海外文学二〇一六年—イギリス文学」『文藝年鑑』（日本文藝家協会編, 新潮社, 2017年）, pp. 66-68.
7. 「海外交流と異種混雑が輝く舞台—ポカホンタス、八雲、カズオ・イシグロ」『図書新聞』2017年12月23日号（第3332号）（図書新聞, 2017）, p. 6.
8. 「海外文学二〇一七年—イギリス文学」『文藝年鑑』（日本文藝家協会編, 新潮社, 2018年）, pp. 66-68.
9. 「ある新刊紹介者の孤独—イギリス小説の現在をめぐって」『三田文学』第133号（三田文学会, 2018）, pp. 156-66.
10. 「英文学会はおもしろい！—日本英文学会の魅力と新時代への可能性」『週刊読書人』

2018年5月18日号(第3239号)(読書人, 2018), p. 4.

11. 「ポカホンタスとイギリス近代」『アメリカ文学』(日本アメリカ文学会東京支部会報) 第79号(日本アメリカ文学会東京支部, 2018), pp. 31-38.
12. 「人はなぜ戦争をするのか?—第一次世界大戦終結百年と文学的想像力」『図書新聞』2018年12月22日号(第3380号)(図書新聞, 2018), p. 4.
13. 「自己を問う、社会を定位する、世界を築く—存在の根幹を問われたイギリス二〇一九年」『図書新聞』2019年12月21日号(第3428号)(図書新聞, 2019), p. 4.